

クリニックで初のCAPD患者・誕生!!

医療法人三思会 ひかりクリニック

中嶋 美和、土田 晃靖、今泉 純子
小林 妙子、小林 真美、根岸 生春
松島 哲子、奥澤 明子、西村 賢一
加藤 圭一、藍原 幸吉、小林 さつき
今井 優

東京女子医科大学東センター内科
船木 威徳



- 腎不全患者が年々増加の一途をたどる中、CAPD療法は全国的に普及に伸び悩んでいる。群馬県でも2005年度末のCAPD患者数は全透析患者数の2.3%に満たない。その背景のひとつには、腹膜透析を行える施設が少なく、CAPDに対する理解が不十分で血液透析導入を余儀なくされた患者も少なくないと思われる。そこで当クリニックではCAPDを取り入れて患者自身が選択し納得したうえで透析が行えるよう支援していきたい、と考えた。



H18年
11月1日
開院

血液透析患者
21名で
スタート

3ヶ月間の
経過観察
順調な為

→ 腹膜透析も
スタート
させたい！



ひかりクリニック



H18年12月 5日 近医に紹介され受診
当院外来通院開始

H19年 1月30日 腹膜透析選択

H19年 2月24日 カテーテル留置術施行
(SMAP法)

<患者紹介>

・N氏 ・年齢 63歳 ・性別 女性
・原疾患 CGN

家族構成 夫、長男夫婦、孫3人
(二世帯家族)

嫁は協力したい、と仕事を一時離職
夫は今春、定年退職



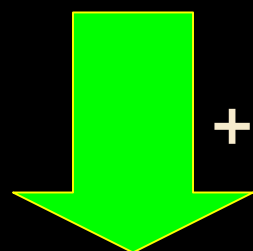
腹膜透析選択時の心理

- 注射がとても嫌い。
 - 血液透析は週に3回通院し、毎回針を刺すので嫌だ。
- ↕
- 腹膜透析なら通院が少なくて痛くなさそう。それに食事制限が少ない。
 - 自分ができるのか心配。
 - お腹を切るのは痛いから嫌。
 - 液を入れたら重たくて何も出来ない。
 - CAPD患者から話を聞いてみたい。



疑問・不安についての対応

- 疑問や不安を全て知る為に患者の話を傾聴し、一つ一つ納得がいくまで説明した。
- 家族と共に、CAPD療法のビデオを再度見直した。



家族の
協力

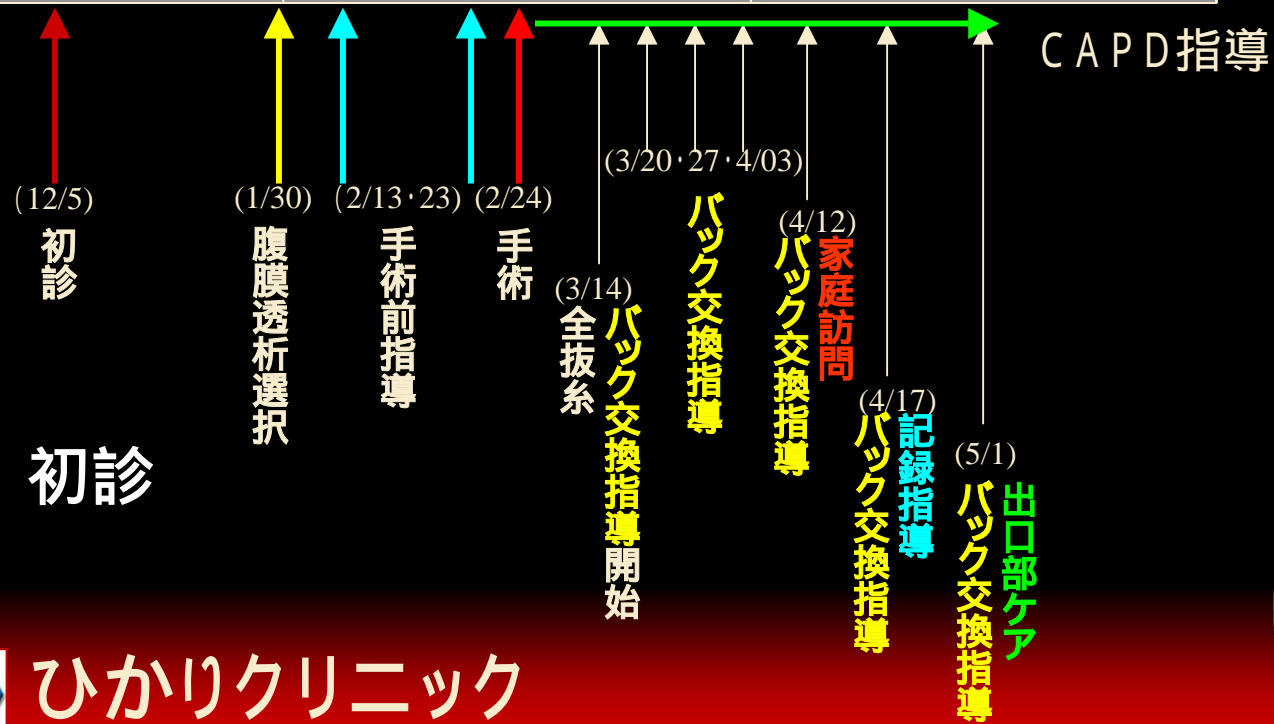
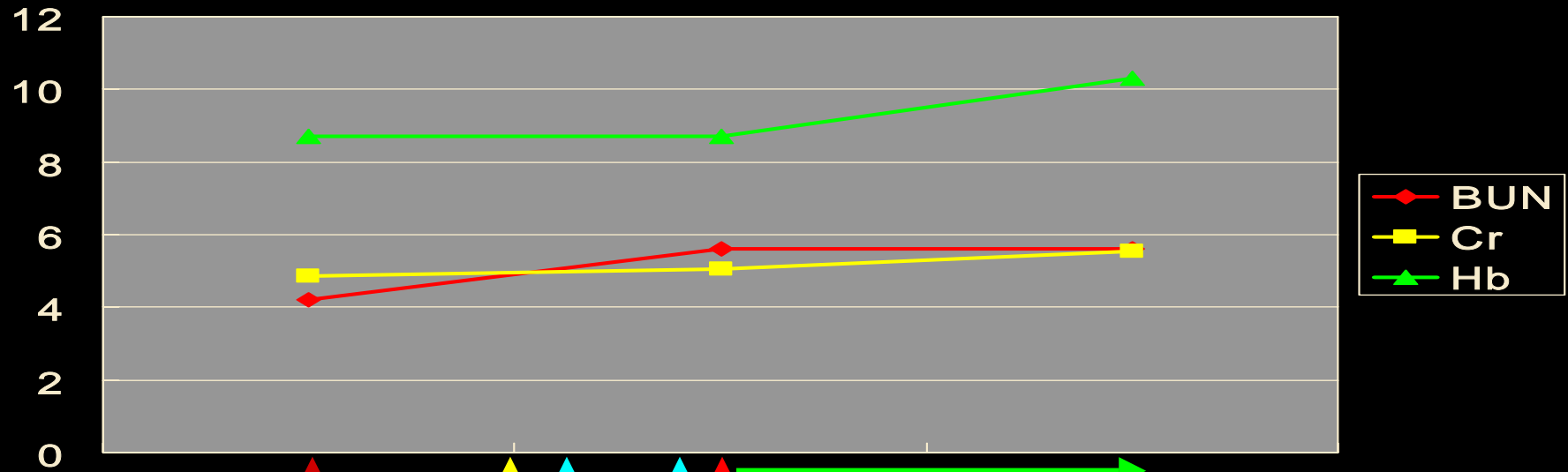
「頑張ります。やってみます。」



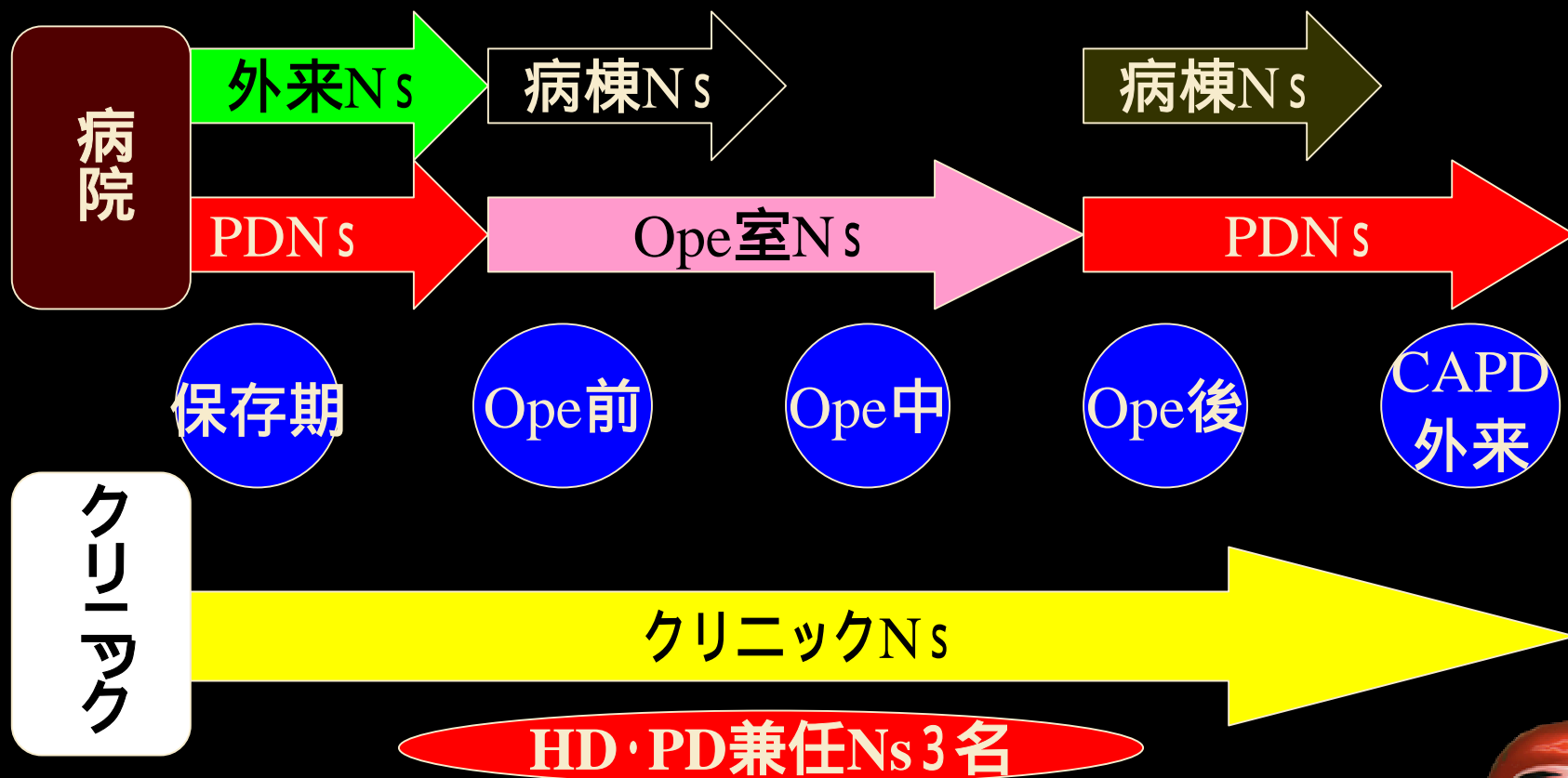
ひかりクリニック



経過



病院とクリニックでの看護師の関わり方の違い



今回の症例を通して学んだ事

- **保存期からCAPD外来通院まで患者を通し看られる事は、クリニックならではの良さであると実感した。**
- 手技の指導は、**SMAP法**を用いた事で計画的に行えた。しかし患者の状態に合わせて自信を無くさない様に指導内容を変更する事は必要である。
- 当院外来患者は、**透析療法の選択が出来るようになった。**



今後の課題

- 今回導入を6月に予定している為、患者にCAPDの生活をイメージさせ、スムーズに受容出来るようにする。
- 液交換手技、入浴方法、栄養指導、トラブル時の対処法などにつき理解が得られるまで何度でも徹底的に指導する。



その具体策

- バッグ交換法

手洗い、マスク着用、交換手技、重量の記載、清潔な環境

- カテーテルケア

1日最低1回、出口部周辺を消毒

- 入浴方法

保護具を使用、許可されたものはオープン入浴

- トラブル時の対処法

- 栄養指導

蛋白質：1.2～1.5g/Kg、カロリー：30Kcal/Kg

- 以上を十分マスターしたことを確認して出口部作成する。



ひかりクリニック



腹膜炎を起こさない様にする為に

- 毎日のバッグ交換を忠実に行う
 - ・マスク着用 ・手洗いの励行 ・環境整備等
- 排液の確認をしっかりと行う
 - ・混濁 ・フィブリンの大きさ、量(数)、色の濃さ ・除水量
- カテーテルケアをしっかりと行う
- 低濃度の透析液を長く使用して行ける様な食事・水分管理をきちんと行う



出口部感染を起こさない様にする為に

- ・ カテーテルケア時のマスク着用
- ・ 手洗いの徹底
- ・ 出口部の乾燥に努める
- ・ 汗をかいたらカテーテルケアを行う
- ・ 1番風呂に入る
- ・ 出口部の観察をしっかり行う
- ・ 排膿・発赤・疼痛・腫脹・痂皮の有無



患者様と家族がCAPDと上手に付き合っ て頂く為には？

CAPD療法においては、患者の自己管理に負うところが大きいため、バッグ交換を生活の一部として取り入れられる様指導に力を注いでおります。その際以下の3点が大切ですので強調しています。

基本に忠実

清潔・不潔の概念を忘れない

面倒臭がらない

以上を踏まえて我々の当面の目標は、
ひかりクリニックに適したクリニカル・パス
の作成です。



ひかりクリニック

